

## 「第24回日本環境医学会学術集会特集」

(臨床環境 24 : 69-70, 2015)

## 学術集会を終えて

## — 新体制の出発点として —

第24回日本環境医学会学術集会 大会長 鈴木幸男

北里大学薬学部 生体制御学  
北里大学北里研究所病院 呼吸器内科

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成27年6月6日(土)、7日(日)の2日間、第24回日本臨床環境医学会学術集会を北里大学薬学部コンベンションホール(東京都港区白金)にて開催させていただきました。皆様のお陰をもちまして、無事、盛会裏に終了することができました。鈴木達夫新理事長はじめ、理事、評議員、座長の諸先生方、ならびに関係各位に深く感謝申し上げます。

今回の学術集会のメインテーマは、最新の知見を元に、衣・食・住など私たちをとりまく様々な環境要因が健康に与える影響を可能な限り科学的に明らかにし、予防や治療に還元することを目的として、「豊かな生活環境をめざして」といたしました。

特別講演「化学物質過敏症 診断と治療の最前線」を坂部 貢先生(東海大学医学部)にお願いし、化学物質過敏症の過去、現在、未来を総括していただきました。また、シンポジウム1「豊かな患者・医療者関係をめざして-」を竹下 啓先生(青山学院大学人間科学科)に、シンポジウム2「環境と健康に及ぼすメチル水銀研究の新展開」を黄 基旭先生(東北大学薬学部)と清野正子先生(北里大学薬学部)に、シンポジウム3「ドライマウスと環境要因」を佐藤 勉先生(日本歯科大学)に、シンポジウム4「腸内環境と病気」を日比紀文先生(北里研究所病院IBDセンター)に、それぞれお願いいたしました。いずれのシンポジウムも本学会にふさわしい内容であり、しかも最先

端の研究発表であったため、ホットなディスカッションが続きました。さらに、一般口演(37演題)も活発なご発表と熱心な質疑応答をいただきました。

最終日には、「シックハウス症候群原因物質の経皮吸収に及ぼすNTE活性の影響」を発表された畑中朋美先生(東海大学医学部)が大会長賞を受賞されました。また、「化学物質過敏症患者が感じる病気に関連する不確かさ」を発表された今井奈妙先生(三重大学医学部看護学科)が奨励賞を、「高脂肪食摂取マウスの腸内細菌変化」を発表された黒沼 智先生(北里大学北里研究所病院バイオメディカルラボ)が若手奨励賞をそれぞれ受賞されました。今後も先生方の本学会における益々のご活躍を祈念いたします。

日本臨床環境医学会は、様々な環境因子が私たちの健康に及ぼす影響を学際的に探求する本邦唯一の学会です。1992年に設立され、医学系と工学系が互いに刺激し合い、切磋琢磨して学会を築きあげてきました。当初より、シックハウス症候群や化学物質過敏症に代表される環境に起因する健康障害に対応すべく、学術研究、症例の蓄積、学会誌の発行などが行われ、医学と社会、そして病で苦しんでいらっしゃる多くの患者さまに貢献してきました。今後も、この原点を決して忘れることなく、本学会がさらに発展していくことを切に望んでやみません。

最後になりますが、事務局として準備や運営など絶大なご協力をいただきました、北里大学北里研究所病院バイオメディカルラボ 竹内 修先

生、黒沼 智先生、北里大学薬学部 高橋哲史先生、梅田智子先生、研究室の皆様にご心より感謝いたします。さらに、ご協力をいただきました北里大学薬学部、北里大学北里研究所病院、企業や個人の方々、そして、本学術集会にご参加いただいた全ての方々に深く感謝申し上げます。